

資 料 編

平和記念資料館の展示と建物についての意見聴取等の概要

1 目的

広島市は、被爆 60 年を機に、被爆の実相がより一層理解できる施設を目指して、今後の展示内容の充実を図り、老朽化した建物の整備方針を検討するため中・長期的な視点に立って平和記念資料館更新計画を策定することとしている。

平成 15 年度は、展示や建物について現状の課題を把握するため、来館者や有識者から幅広く意見を聴取した。

2 意見聴取等の概要

来館者、有識者、被爆者団体などへアンケート調査、面談調査、意見聴取等を行った。(1,085 人・団体)

詳細別紙 1 のとおり(50 ページ)

3 調査結果の概要

(1) 対象者別アンケート等集計結果

個人来館者(国内)[面談調査]	別紙 2 - 1 のとおり(51 ページ)
個人来館者(外国人)[アンケート調査]	別紙 2 - 2 のとおり(54 ページ)
被爆体験証言受講団体[アンケート調査]	別紙 2 - 3 のとおり(56 ページ)
有識者[意見聴取]	別紙 2 - 4 のとおり(58 ページ)
資料調査研究会委員[意見聴取]	別紙 2 - 5 のとおり(60 ページ)

(2) 自由記述・意見聴取内容(別紙 1 の調査対象者の自由記述及び意見聴取内容より抜粋)

展示について

展示コンセプト

展示のメッセージ性や平和の創造のために平和記念資料館が担うべき役割について意見があった。

- ・ 館のコンセプトを明確にし、メッセージ性を強くする。
- ・ あまりきれいにまとめると(物を陳列する)「博物館」になってしまう。「博物館」ではなく、世界に発信していく中心地になって欲しい。
- ・ 観覧者が自分自身で、現状、未来について考えていく展示が必要。
- ・ 核の恐怖や悲惨さを訴えたり、核開発への批判や抗議を世界に発信するだけでは弱い。国内外の人たちが取り組んでいる運動をより多くの人たちに知ってもらう場を作って欲しい。

観覧動線

現状の動線は長く強制的で、限られた時間の中では、展示をゆっくり観覧することができないことから、動線の再検討を行い、見学の順序の変更、コースの設定、建物ごとに動線を分けるなど様々な意見が出された。

- ・ 広島の被爆前後の歩みや核時代の展示で時間を取られすぎて、被爆の惨状の展示では急ぎ足(特に修学旅行生)にならざるを得ない。

- ・ 各館別々に入館できるようにしてはどうか。
- ・ 被害の概要、基本的事項の説明を行う館とテーマ別の詳細を説明する館とに分ける。
- ・ 1 時間弱で「原爆とは何か」を知ることができる構成、これだけは見てもらいたいものを考える必要がある。コース案内、見てもらべきポイントの情報を来館者に提示することが必要。
- ・ 様々な来館者のために動線のオプションを示すことは大切である。子どもへの影響の配慮として、人的被害の悲惨な展示を避けるショートカットのコースを設ける。
- ・ 展示の順番は時系列（前史、被爆、復興、核時代）が良い。被爆の実相を最後に観覧する今の順番は混乱する。

展示手法

遺品、写真など被爆の実物資料を重視すべきであるという意見が多かった。体験型などについては賛成・反対・慎重も含めて意見が分かれた。

- ・ 作り物になるため、手法はあまり凝らない方がよい。
- ・ 資料をたくさん展示すれば、各人が受け止める。技法は不要である。
- ・ テーマは現物資料で伝えてほしい。説明を読まなくても良い展示を基本にする。
- ・ 展示はすばらしかった。（特に犠牲者や被爆者個々の話がよかった。展示を通して被爆の実相を知ることができた。特に子どもの話は感動的だ。子どもでも理解できる。生々しくてよい。当時の状況を想像できる。）
- ・ 展示には最新の技術を導入するよう期待している。
- ・ 体験できるコーナーを増やせばよい。（例えば、爆音と爆風等を擬似体験し、崩れた建物や傷ついた人々が横たわるような被爆した町にいるような体験型展示。音やにおいを感じるコーナー。）
- ・ 理由もなく怖いと感じさせるのではなく、資料のバックグラウンドを通して悲惨さを感じさせるべき。悲惨さだけを強調すると「原爆」ではなく「平和記念資料館」が怖いで終わる可能性がある。体験型の展示も怖い風景を出せば拒否反応しかないのではないか。
- ・ IT 技術を駆使したシミュレーションや、クイズ形式による来館者参加型の手法等は子どもに対して有用であるが、擬似体験は所詮、擬似体験に過ぎない。しかも、単純化した擬似体験は実際の戦争体験を間違えて印象づける恐れもあるので、注意を要する。

展示分野

展示の分野について、原爆被害の実相について重点を置くという意見と、歴史、加害、時事問題などに広げるといった意見があった。

- ・ 原爆について展示領域を特化すべき。原爆と歴史加害の問題は別であり、ここで歴史について述べても足りない。全国の平和関係の機関で分業体制をとり、各々で強くアピールできることをしていけばよい。
- ・ 平和関連全体を盛り込むと、他の戦争博物館と重複する。展示は必要最小限のことにして、興味がある人は調べるコーナーを利用するようにすればよい。
- ・ 原爆はいけないということではなく、戦争はいけないということを訴えなければならない。それには核の被害のみでなく、加害、在外被爆者等抜きにはできない。
- ・ イラク戦争やパレスチナ問題など現代の問題も紹介して欲しい。

その他

その他、展示環境、個別の展示などについて意見があった。

- ・ 各展示間のスペースがもっと必要である。館内が混んでいるとき、展示に近づいたり、次の展示へ移動するのが難しい。
- ・ 文字の量、展示資料が多すぎる。
- ・ 視覚障害者を対象とした設備、展示が少ないので、さわれる資料や、配布資料を充実させる。
- ・ 展示を大人と子どもで分けるのは難しいが、子どもに分かりやすい解説があるとよい。
- ・ 絵本などでエピソードが紹介されている資料が直接見られてよかった。
- ・ ジオラマ人形が印象に残った。
- ・ ジオラマ人形は作り物っぽくてお化け屋敷のようである。被災写真や市民の描いた原爆の絵などのほうがよい。
- ・ 平和記念資料館の収集、研究機能を充実して欲しい。

施設について

- ・ ミュージアムショップの位置は最後がよい。
- ・ トイレ、階段等のユニバーサルデザインを進めて欲しい。
- ・ 休憩スペースを増やして欲しい。
- ・ 地下の展示室に行きにくい。

建物の整備について

整備の方向について

- ・ 丹下健三氏の設計による平和記念資料館は、20 世紀の名建築のひとつで、近代建築文化遺産であり、平和記念公園の記念碑的性格を持つ平和記念公園の顔である。老朽化を理由に簡単に取り壊すべきものではない。建築そのものが持つ価値を認識しできるだけ保存・活用して欲しい。
- ・ 平和記念資料館の存在が広島市の再生を象徴しており、たとえ建築物としての機能が時代に合わなくなったとしても、その建築躯体自体が広島市民にとって継承すべき形見のようなものだ。ある意味、復活の奇跡をもっとも象徴する建物である。
- ・ 21 世紀の平和記念資料館の展開に相応しい、「平和の伝承者にして発言者」としての人類史的拠点にぴったりの新しい建物にできるなら、「新しい平和メッセージ発信基地」となる。

整備案

- ・ 平和記念資料館は、原爆ドーム同様保存すべき建物で、最新の技術で守っていかなければならない。技術も進んでおり、守っていけば半永久的に残せる。そのための経費がかかってもやむをえない。
- ・ 老朽化し、コンクリートそのものの強度が落ちると、補強しても元の強度が出せない。そのため、建物そのものを揺らさないような免震構造にする必要がある。
- ・ 地震対策をして保存するにしても、デザインが変わっては意味がない。外観を保存するには、高床の柱に筋交いを入れて補強する耐震より、地下部分の設備で揺れの影響を減らす免震にするべき。

4 展示パネルすべての観覧に要する時間及び来館者の平均観覧時間の調査の概要

更新計画を策定する際の参考資料とするため、常設展示パネルすべての観覧に要する時間と、来館者の平均観覧時間などの調査を実施した。

詳細別紙 3 のとおり（ 6 2 ページ）

意見聴取等の概要

1 意見聴取先と回答者（団体）数

対象者	調査方法		回答者・団体数
来館者	面談調査		国内個人 200 人
	アンケート調査		外国人個人 64 人 * 1
			被爆体験証言受講団体 100 団体
有識者	個別意見聴取		8 人
	広島平和記念資料館資料調査研究会での聞き取り調査		9 人
国内・外の人	意見募集	館内チラシ ホームページ	日本人 347 人(うちEメール回答4人)
			外国人 92 人
		広報紙 9 月 15 日号(平和記念施設保存・整備方針の意見募集と合わせて実施)	108 人
被爆者団体	「被爆体験証言者交流の集い」加入団体への意見募集 * 2		1 団体 * 2
市内博物館職員	聞き取り調査		10 人
スタッフ	アンケート調査		146 人
合計			1,085 人・団体

2 その他調査

- （１）展示パネルすべての観覧に要する時間の調査 職員 5 人
- （２）来館者の平均観覧時間の調査 各コーナー来館者 のべ 364 人

集計人数・団体の合計 1,454 人・団体

* 1 外国人個人 64 人：本館ロビーにアンケート用紙を置き、任意に記述。

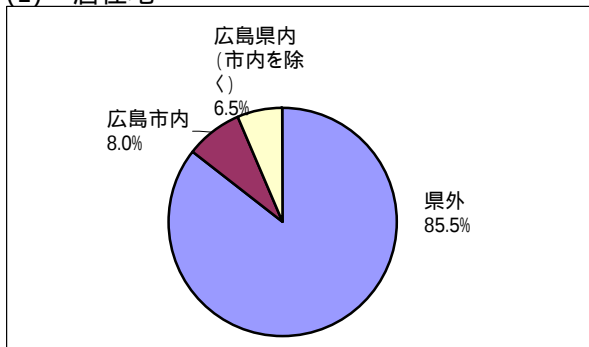
* 2 「被爆体験証言者交流の集い」加入団体への意見募集：「被爆体験証言者交流の集い」へ加入している 17 団体（広島平和教育研究所、広島県原爆被爆教職員の会、広島県原爆被爆者団体協議会など）の会合で、意見聴取を行った。「回答者・団体数」の 1 団体は、別途書面にて回答があった団体数。

対象者別アンケート等集計結果 - 個人来館者(国内)〔面談調査〕

1 調査対象
個人来館者(国内) 200人 (調査票は53ページのとおり)

2 内容

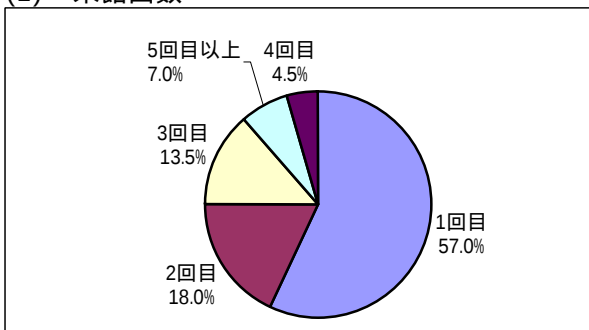
(1) 居住地



場所	割合
県外	85.5%
広島市内	8.0%
広島県内(市内を除く)	6.5%
海外	0.0%
合計	100.0%

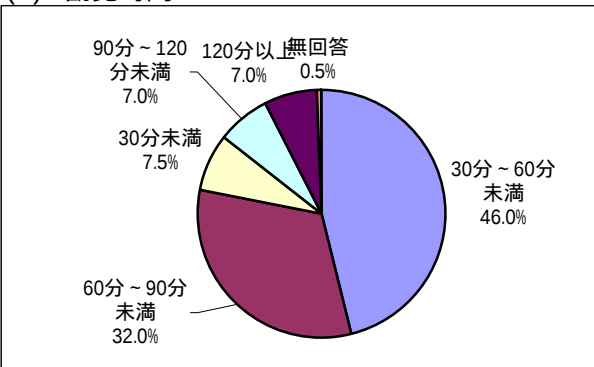
(参考) 上位2地域: 関東32.5%、近畿22%

(2) 来館回数



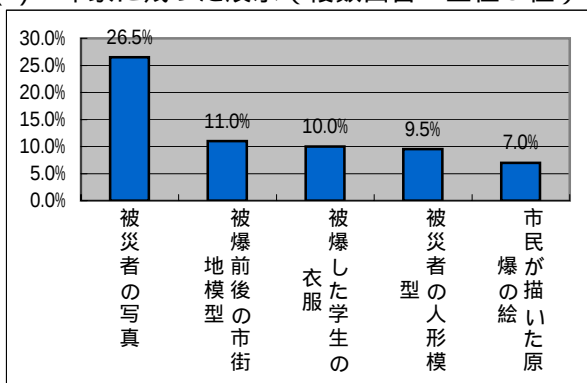
回数	割合
1回目	57.0%
2回目	18.0%
3回目	13.5%
5回目以上	7.0%
4回目	4.5%
合計	100.0%

(3) 観覧時間



時間	割合
30分～60分未満	46.0%
60分～90分未満	32.0%
30分未満	7.5%
90分～120分未満	7.0%
120分以上	7.0%
無回答	0.5%
合計	100.0%

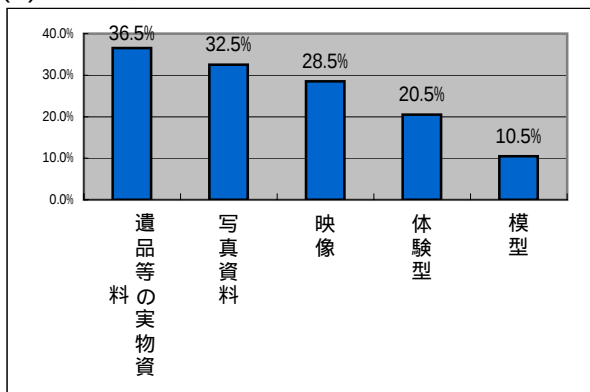
(4) 印象に残った展示(複数回答 上位5位)



内容	割合
被災者の写真	26.5%
被爆前後の市街地模型	11.0%
被爆した学生の衣服	10.0%
被災者の人形模型	9.5%
市民が描いた原爆の絵	7.0%

(%は回答者に対する割合)

(5) 今後、どのような形の展示に力を注ぐべきか（複数回答 上位5項目）



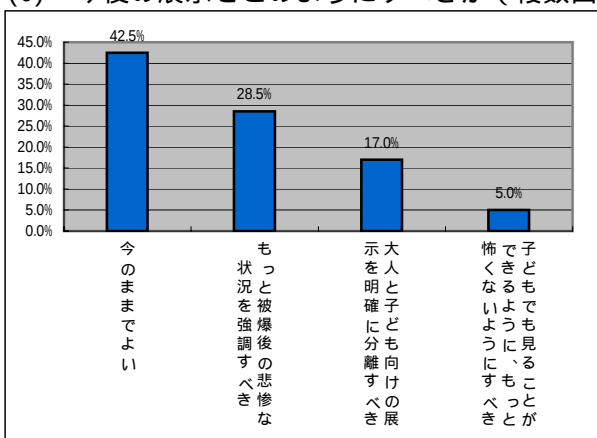
内容	割合
遺品等の実物資料	36.5%
写真資料	32.5%
映像	28.5%
体験型	20.5%
模型	10.5%

（％は回答者に対する割合）

【意見】

- 証言者、ボランティアなどの生の声に触れる機会を増やす。
- 現在の手法でよい。（あまり作りこまず、被爆資料、市民が描いた原爆の絵などを中心する。）

(6) 今後の展示をどのようにすべきか（複数回答）



内容	割合
今のままでよい	42.5%
もっと被爆後の悲惨な状況を強調すべき	28.5%
大人と子ども向けの展示を明確に分離すべき	17.0%
子どもでも見ることが怖くないように、もっと怖くないようにすべき	5.0%

（％は回答者に対する割合）

【意見】

- ありのままの事実を展示すればよい。
- 対象別の展示をつくるとよい。（悲惨なものがあってもよい。）

(7) その他設備について

【意見】

- 落ち着ける場所にもっと休憩場所が欲しい。
- トイレが少ない。
- エスカレーター、エレベーターがあるとよい。

調査票 - 個人来館者 (国内) [面談調査]

ご来館、ありがとうございました。

今後の展示更新の参考とさせていただくため、アンケート調査のご協力をお願いします。

(1) 今回の来館で、平和記念資料館は何回目ですか。

初めて 2 回目 3 回目 4 回目 5 回目以上

(2) 館内では、どこが印象に残りましたか。また、その理由をお書きください。(複数回答可)

常設展示 展示室 3 (東館地下 1 階) 展示室 4 (東館地下 1 階)

展示室 5 (東館地下 1 階) 情報資料室 (東館地下 1 階)

ビデオシアター (東館 1 階) ミュージアムショップ (東館 3 階)

新着資料展 (東館 3 階) ビデオコーナー (東館 3 階)

その他 (具体的に

理由

(3) 常設展示の順番は、どのようにすべきとお考えですか。

今のままでよい 一部、時代順でないので分かりにくい

被爆の実相を先に見て、その後、全体の歴史を見たい

その他 (具体的に

(4) 今後の展示は、どのようなものにすべきとお考えですか。(複数回答可)

今のままでよい もっと、被爆後の悲惨な状況を強調すべき

子どもでも見るように、もっと怖くないようにすべきだ

大人向けの展示と子ども向けの展示を明確に分離すべきだ

その他 (具体的に

(5) 今後、どういう形の展示に力を注ぐべきとお考えですか。(複数回答可)

実物資料 写真資料 模型 映像 音声 実験装置 効果音 体験型

その他 (具体的に

(6) 館内滞在時間は。

30 分未満 60 分未満 90 分未満 120 分未満 120 分以上

(7) あなたのお住まいは。

広島市内 広島県内 広島県外 (都道府県) 海外 ()

(8) その他展示、施設等に関するご意見があれば、お願いします。

ご協力、誠にありがとうございました。

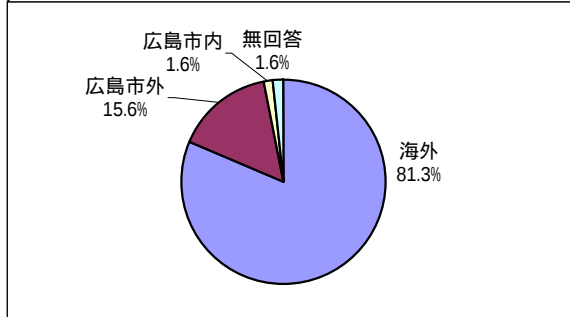
広島平和記念資料館 学芸担当

来館者別アンケート等集計結果 - 個人来館者（外国人）〔アンケート調査〕

- 1 調査対象
個人来館者（外国人） 64人
（英文によるアンケート）

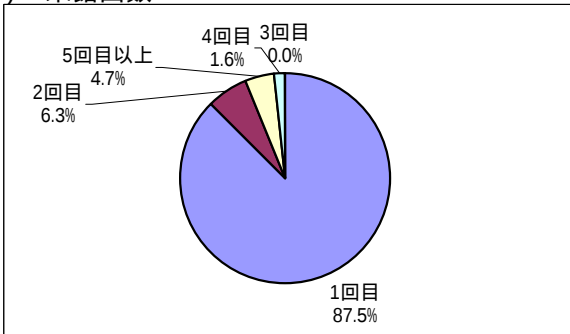
2 内容

(1) 居住地



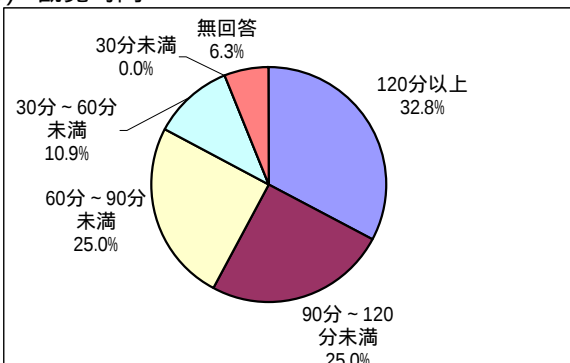
場所	割合
海外	81.3%
広島市外	15.6%
広島市内	1.6%
無回答	1.6%
合計	100.0%

(2) 来館回数



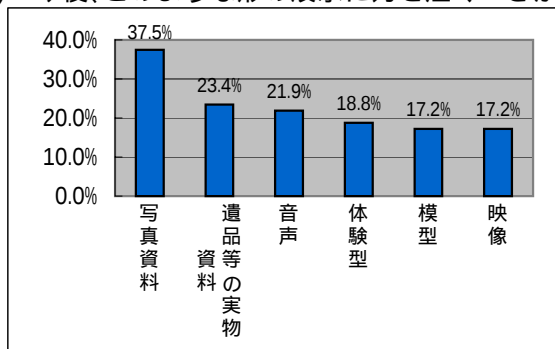
回数	割合
1回目	87.5%
2回目	6.3%
3回目	0.0%
4回目	1.6%
5回目以上	4.7%
合計	100.0%

(3) 観覧時間



時間	割合
120分以上	32.8%
90分～120分未満	25.0%
60分～90分未満	25.0%
30分～60分未満	10.9%
30分未満	0.0%
無回答	6.3%
合計	100.0%

(4) 今後、どのような形の展示に力を注ぐべきか（複数回答 上位5位）



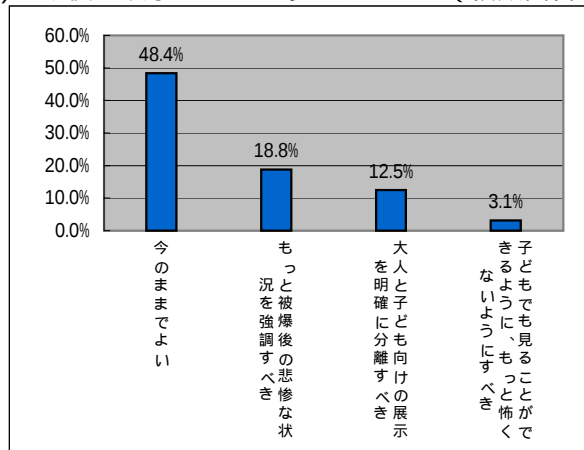
内容	割合
写真資料	37.5%
遺品等の実物資料	23.4%
音声	21.9%
体験型	18.8%
模型	17.2%
映像	17.2%

（割合は回答者に対する割合）

【意見】

- 建物ではなく犠牲者の写真がもっとあった方がよい。
- 体験型展示が若い世代に必要。

(5) 今後の展示をどのようにすべきか（複数回答）



内容	割合
今のままでよい	48.4%
もっと被爆後の悲惨な状況を強調すべき	18.8%
大人と子ども向けの展示を明確に分離すべき	12.5%
子どもでも見ることができるよう、もっと怖くないようにすべき	3.1%

（割合は回答者に対する割合）

【意見】

- 恐くした方がより現実的になる。
- 幼い子どものために展示を分けてつくとよい。

(6) その他設備について

【意見】

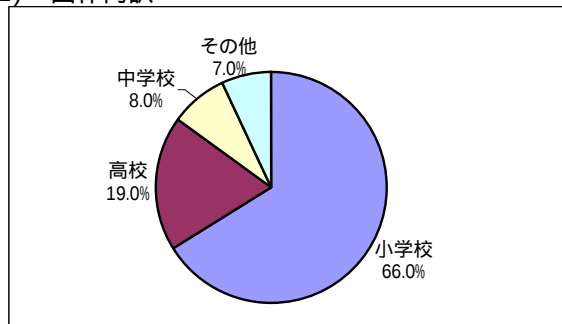
- 展示技術、内容とも最新のものを使うべき。
- 滞在時間が長時間に及ぶため、水飲み場や飲食の場所を改善して欲しい。

対象者別アンケート等集計結果 - (被爆体験証言受講団体)〔アンケート調査〕

- 1 調査対象
来館団体 (被爆体験証言受講団体) 100団体

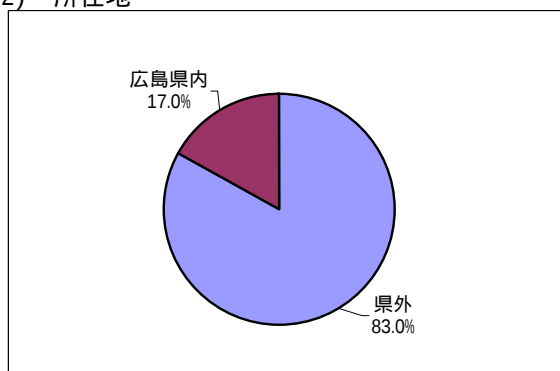
2 内容

(1) 団体内訳



内訳	割合
小学校	66.0%
高校	19.0%
中学校	8.0%
その他	7.0%
合計	100.0%

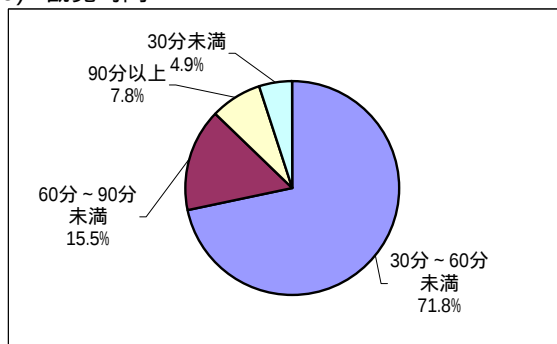
(2) 所在地



場所	割合
県外	83.0%
広島県内	17.0%
合計	100.0%

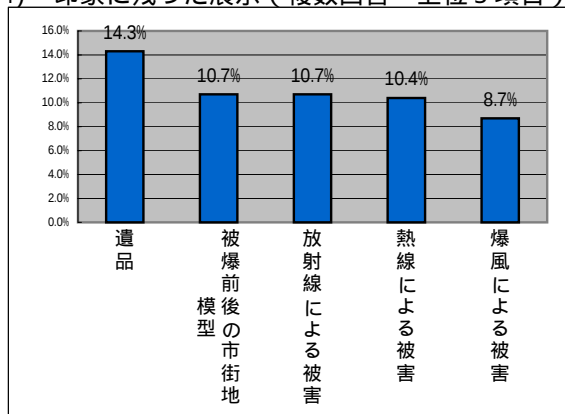
(近畿33%、広島県を除く中国14%、北海道10%、関東9%、中部8%、九州5%、四国4%)

(3) 観覧時間



時間	割合
30分～60分未満	71.8%
60分～90分未満	15.5%
90分以上	7.8%
30分未満	4.9%

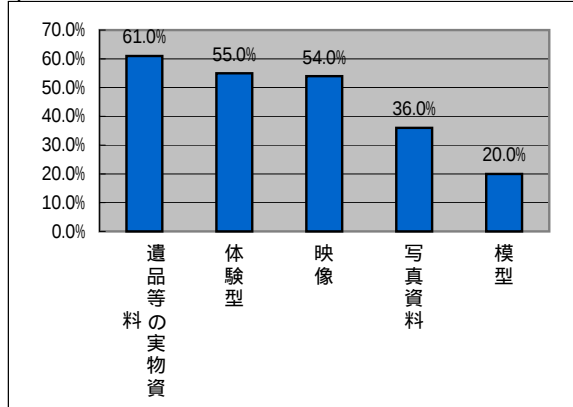
(4) 印象に残った展示 (複数回答 上位5項目)



内容	割合
遺品	14.3%
被爆前後の市街地模型	10.7%
放射線による被害	10.7%
熱線による被害	10.4%
爆風による被害	8.7%

(%は回答者に対する割合)

(5) 今後、どのような形の展示に力を注ぐべきか（複数回答 上位5位）



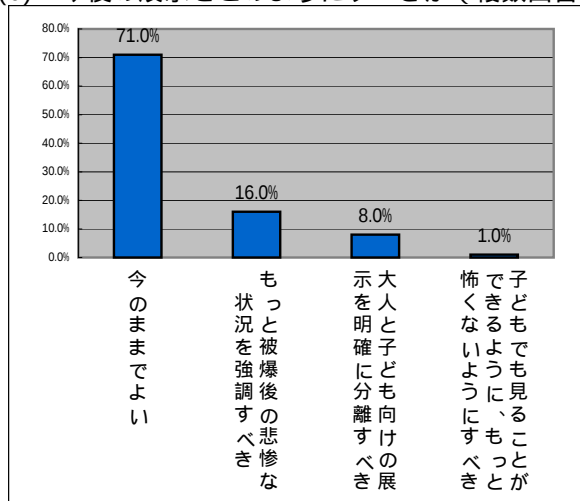
内容	割合
遺品等の実物資料	61.0%
体験型	55.0%
映像	54.0%
写真資料	36.0%
模型	20.0%

（％は回答者に対する割合）

【意見】

- 企画展にもっと力をいれて欲しい。
- 原爆を実感できるような五感的体験コーナーがあったらよい。

(6) 今後の展示をどのようにすべきか（複数回答）



内容	割合
今のままでよい	71.0%
もっと被爆後の悲惨な状況を強調すべき	16.0%
大人と子ども向けの展示を明確に分離すべき	8.0%
子どもでも見ることができるよう、もっと怖くないようにすべき	1.0%

（％は回答者に対する割合）

【意見】

- 小学生向けの解説があるとよい。
- 生徒が倒れるほど生々しい物が多い方がよく伝わる。
- 以前の整備されていなかった頃の方が迫力があつた。ビジュアル的、デジタル技術を使ったりした展示で悲惨さが和らいでしまった。

(7) その他設備について

【意見】

- 直接、本館に入れるコースや、時間配分のプランなどを案内して欲しい。
- 車椅子利用者も同じように展示を見ることができるよう工夫して欲しい。
- 団体が多い時期に、見学スペース、トイレが対応できていない。
- 順路、出口、ホールの場所案内がもう少し分かりやすいと良い。
- ミュージアムショップの書籍が手に取れるようスペース増設して欲しい。

対象者別アンケート等集計結果—有識者（意見聴取）

1 概要

更新計画策定に当たり、展示や建物等について、当館の現状を把握し課題を抽出・整理するために、建築学や平和学、博物館学等の有識者 8 人から直接意見聴取を行った（うち 2 人は文書による回答）。

2 主な聞き取り内容

建物関係

安藤忠雄氏 （建築計画、東京大学大学院工学系研究科・工学部建築学専攻教授）	平和記念資料館は人々の記憶の中にある。国民的な財産である。残さないといけない。平和記念公園で、年間を通じて土日などに平和祈念コンサートなどのイベントを行う。収益の 3 分の 1 くらいは市に寄付してもらったらどうか。
杉本俊多氏 （建築意匠、広島大学大学院工学研究科教授） （論文提出）	平和記念資料館は、広島市の再生の象徴であり、20 世紀を代表する建築家丹下健三氏の傑作の 1 つとして高度な芸術作品と言える。また、資料館を含む平和記念公園は、世界平和を願う一種の現代版の宗教的施設であると見なすことができ、意義深い空間構成となっていて、恒久的な施設となるにふさわしい組み立てと言える。その形態の維持と継承は人類的な次元で意味を持つ。
高松隆夫氏 （建設工学、広島工業大学工学部建設工学科教授・日本建築学学会中国支部長）	平和記念資料館は、世界の平和活動の象徴であり、丹下の代表作となる貴重な建物である。免震化することで、広島市が「永久保存をする」という方針を明確に打ち出せる。建物の歴史的価値も上がる。外国では、古い建物を保存するのに、ほとんど免震を採用している。保存方法としては免震が一番優れている。

展示関係

青木豊氏 (博物館資料論、国学院大学教授)	核兵器が怖いと感じさせることは、悪くない。「お化け屋敷は怖い」とは違う。通史は不要。この館でしかできない原爆について展示する。原爆と歴史加害の問題は別であり、ここで歴史について述べても足りない。被爆の実相を伝えるため、収蔵資料をできるだけ見せる。量が多いと、リピーターの来館が有り、新たな発見があるはずである。体験型はテーマに合わない。子どもの遊び場的な館とは異なる。
安斎育郎氏 (平和学、世界平和博物館ネットワーク国際調整委員・立命館大学国際平和ミュージアム館長)	平和記念資料館の展示テーマは原爆投下に至る前史、核時代など原爆を巡る情報であり、それを簡潔に紹介するべきだ。広義の「平和」を扱う必要はない。核兵器被害の非人道性を告発する博物館というアイデンティティを希薄なものとする恐れがある。展示の順番は時系列(前史、被爆、復興、核時代)が良い。今の順番は混乱する。
小川伸彦氏 (社会学、奈良女子大学文学部国際社会文化学科比較歴史社会学講座助教授)	平和記念資料館は、驚き、怒りなど心理的負荷を与える必要と、心に傷を与える心理的損傷を回避する2つのジレンマを背負った施設である自覚が必要。被爆の追体験は不可能なので、体験型展示(光、爆風等)は無意味。そもそも、発想の方向に問題あり。実物が持っている力を信じ、演出を最小限にして、実物主義を貫くべき。
佐々木亨氏 (博物館経営論、北海道大学文学部教授)	平和記念資料館が「社会で果たす役割」「活動領域」「守備範囲」などあるべき姿をあらかじめ決めておく必要がある。平和記念資料館内でのコンセンサスが必要。策定委員会等の外部への対応のため、館の立場を固めておく必要がある。データ調査は現状把握にはよいが、価値判断はできない。館の理想形が出て初めてデータが更新のための目安となる。
マーティン・ハーウィット氏 (博物館学、元スミソニアン国立航空宇宙博物館長) (文書回答)	来館者が犠牲者に対し必然的に抱くような情緒的な部分の展示と、原爆投下に至る経緯等を説明した純粋に史実を紹介する展示とを完全に分離する。情緒的な部分では、もっと、原爆投下によりもたらされた苦しみに焦点をあてるべきである。また、投下によって生じた長期的な政治的議論を紹介すべきである。
マーティン・シャーウィン氏 (歴史学、タフツ大学教授)	平和記念資料館は、展示パネル数、文字数とも多いので、主動線のほうは説明を減らし、コーナー毎で概略が分かるようにする。これとは別に、より詳しく知りたい人のために詳細まで説明した副動線の迂回路を作るとよい。 映像で概要を掴んでから見学するよう、1階のビデオシアターを通して展示室に入れるようにする。

対象者別アンケート等集計結果—資料調査研究会（意見聴取）

1 概要

広島平和記念資料館資料調査研究会臨時総会を開催し、出席委員 9 人から展示のコンセプト、展示動線、展示構成、展示分野、建物整備について意見聴取を行った。

（参考）広島平和記念資料館資料調査研究会

平成 10 年に発足した有識者で構成する研究会。常設展示の一部見直しや企画展開催のための基礎的データの蓄積を図るため、平和記念資料館の資料等の調査分析や学術研究を行い、博物館機能の強化を進めている。

2 意見

（１） 展示のコンセプト

- ・ 被爆の実相がいかに人間的に悲惨だったかを紹介すべきである。
- ・ 今以上に悲惨にする必要はない。悲惨だからより平和の心が芽生えるとは思わない。詳細に見たい人が閲覧できる物は必要。
- ・ 今の展示はきれいすぎて核が怖いというイメージがわからない。

（２） 展示動線

- ・ 本館へすぐ入れるルートを作るべき。各館を独立させた方がよい。そうすると来館者が、所要時間によりコースを選択できる。
- ・ 被爆の実相を先に観覧して、その後通史を観覧するべき。その方が、インパクトも強い。広島に来て観覧する意義があるのは被爆の実相の展示の方である。
- ・ 通常の見学者は被爆の実相の展示で満足する。興味がある人、学習する人、リピーターが通史の展示にも入れる動線も検討すべき。
- ・ 本館をメインに、東館をサブに位置付けるようにする。
- ・ 各館をつなぐには 1 本の渡り廊下のみでは難しいので地下でつなげたらどうか。

（３） 展示構成

- ・ 東館は平和学習の場、本館は被爆の実相の場とし、東館の展示データはどんどん更新すべき。
- ・ 本館は、印象深い資料に絞り、もっとゆったりさせ、さらに見たい人を、東館へ誘導してはどうか。
- ・ 本館は概要のみを説明し、ディテールは東館でテーマごとに説明するとよい。
- ・ 本館は、「原爆投下に関する基本的な事項」で、東館は、「原爆及び核問題に関するより専門的な事柄」を対象とすればよい。それを超える範囲は、他機関とネットワークし、役割分担をすればよい。

(4) 展示分野

- ・ 平和記念資料館が、全部平和教育を担うことはない。他の戦争博物館と重複する。平和記念資料館は「原爆から入る平和教育を担う」と機能を絞ってよいのではないかな。
- ・ 原爆はいけないということだけではなく、戦争はいけないということを訴えなければならぬ。それには核の被害のみでなく、加害、在外被爆者等抜きにはできない。
- ・ 網羅的に展示するのはよくない。在外被爆者に触れることは大切だがエッセンスでよい。それをきっかけに、勉強を始めてもらおうとよい。平和記念資料館は原爆に特化するべきである。
- ・ 平和記念資料館は、平和全体まで広げず、核がだめだということを伝えればよい。核を通して平和を語ればよい。
- ・ 歴史展示の内容を変更する必要はないが、メイン動線に入れる必要はない。「平和記念資料館も、加害について踏まえていること」等をPRする展示をいれればよい。

(5) 建物整備

- ・ 丹下が設計した平和記念資料館は日本の戦後の建築20選に入る。寿命のある限り、持たせた方がよい。もし、建替えるとしても、当時の工法、デザインを踏襲した方がよい。
- ・ 広島財産として受け継いでいくべき。本気で残したいのであれば、そのための経費がかかるのは仕方がない。
- ・ 平和記念資料館は、平和記念公園の軸の中心だからいまの形態であって欲しい。平和記念公園全体のシンボルとして、展示されているものもシンボリックなものにする。

展示パネルすべての観覧に要する時間及び来館者の平均観覧時間の調査の概要

更新計画を策定する際の参考資料とするため、標記の調査を実施した。

1 展示パネルすべての観覧に要する時間の概要

(1) 調査概要

館内の資料、キャプション、映像等を観覧するのに必要とする時間を調査するため、職員 5 人が常設展示全ての展示を観覧し、平均所要時間を計測した。

(2) 調査結果

平均所要時間

東館 1 階	41 分 14 秒	
東館 2 階	13 分 36 秒	
東館 3 階	35 分 40 秒	
本館	88 分 21 秒	<u>合計 約 3 時間 (2 時間 58 分 51 秒)</u>

2 来館者の平均観覧時間などの概要

(1) 調査概要

来館者の展示に対する関心の度合い、動線、観覧時間を調査するため、任意の調査対象者が立ち止まって見学した場所、館内の動線等を展示コーナーごとに記録し、実際の観覧時間、関心の高い展示場所を調査した。

(2) 調査結果

実際の平均観覧時間

東館 1 階	14 分 33 秒	
東館 2 階	4 分 24 秒	
東館 3 階	7 分 40 秒	
本館	18 分 55 秒	<u>合計 45 分 32 秒</u>

(3) 関心の高い展示場所

各展示エリア別に調査対象者の立ち止まりポイントを記録し、ポイント数の高い展示場所を調査した。

結果別添のとおり